

グループ名 ・代表者名	みんなのデータサイト 小山 貴弓さん	助成金額	50万円
連絡先など	minnanods@gmail.com		
助成のテーマ	土壌および食品の放射能汚染データベースの解析と活用II		

**【調査研究の概要】**2014年から3年間かけて行なった、土壌中の放射性セシウム汚染を調査するプロジェクトの集大成として、本年は、「図説・17 都県 放射能測定マップ+読み解き集」を刊行した。これまでに公開してきた汚染の濃淡を色別に示した地図に、詳細な解説を加え、また食品汚染と土壌汚染の比較や個別の食品の汚染の年次推移、チェルノブイリ事故の避難と保障についての区分と日本の区分基準の違いを明らかにした比較表の改良、放射能に関する基礎知識の収録など、国内外で他に類を見ない詳細な情報を記載した。200ページ、すべてカラーのA4サイズの大判で、自分たちで出版社を立ち上げ自費出版をしたところ、大きな反響を得て、初版から4ヶ月で累計1万6,000冊を発行するに至った。これまでに関心を寄せていなかった人々が本書を手にし、福島第一原発事故について関心を寄せ考えるきっかけとなっている。全国の避難者団体などにも寄贈し、回覧して見ていただけるようになった。また、この書籍の編集および発行後の各地での「読み解き講座」の実施により、測定室のメンバーが「市民科学者」として育成されることも狙いのひとつであり、その目的が果たされつつある。現在、本書の英語化を急いでいる。その他の言語での翻訳も、問い合わせが来ており、今後取り組んでいく可能性がある。なかなか実情が伝わらない海外にも、広く、事故後の現状や我々が直面している課題を伝え、連携していきたい。

**【調査研究の経過】**2018年6月5日 「真鶴土壌採取キャラバン」実施。6ヶ所採取。

7月16日 出版社を立ち上げることを決意。出版社登録作業。

8月3日～9月28日 Motion Galleryによるクラウドファンディング「みんなのデータサイト・放射能測定調査6年間の集大成 ついに書籍化！先行予約開始」。(1,288人の支援、約628万円)

11月5日 印刷会社・イニクニックへマップ集原稿入稿。

11月13日 第1刷 3000部を発行。

12～3月 全国各地で読み解き講座開催。(相模原市、札幌市、小川町、長岡市、新潟市、千代田区、名古屋市、浦添市、岡山市、郡山市、仙台市、大崎市など)

12月25日「地方小出版流通センター」と正式契約。書店への流通を開始。

2019年1月23～25日 避難者向けマップ集発送作業。(304冊+a)

2月18日～22日 福島県内高校、大学図書館、県内公立図書館向け発送作業。(201冊)

**【今後の展望など】**(1) 市民科学者の育成・成長の継続：マップ集の原稿を執筆し、資料を集め、発行するまでの過程において、関わった多くの測定室にとって、市民科学者としての視点や知識を増すことができた。また、刊行後の読み解き講座の開催にあたっては、さらなる研鑽を積み、先輩市民科学者の指導を仰ぎながら徐々に講師として独り立ちを始めている。原発事故から年数が経つ中、今なお継続している事故に向き合い、風化を防ぎ、正確な情報を伝え、全国でこの問題を考えるための人材を一人でも増やしていきたい。

(2) 英語版作成による海外との連携：マップ集の発行以来、マップ集を携え、海外に渡ってくださる方々が多い。そして「次は英語版を！」の声が高まっている。

(3) 出版社としての活動：立ち上げた出版社の事業として、次なる出版物の企画を進めていきたい。

会計報告書の概要 (金額単位：千円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費・滞在費	アトラス販(関東6回)、重点地域WS(宮城2回、福島1回)、沖縄1回、市民科学者育成研修会	355	332	0	23
会議費	市民科学者育成研修会、宮城WS2回、福島WS1回	125	47	0	78
印刷費	マップ集印刷費	2,503	0	98	2,405
協力者謝礼等	マップ集原稿料	423	46	0	377
外部委託費	マップ集デザイン費	537	0	430	107
人件費	マップ集読み解き講師代、事務局人件費	195	75	0	120
運営経費	事務消耗品	39	0	0	39
合 計		4,176	500	527	3,148

#### 参考文献(ウェブサイトや書籍、成果物など)

- みんなのデータサイト『図説・17 都県放射能測定マップ+読み解き集:2011年のあの時・いま・未来を知る』みんなのデータサイト出版、2018年11月13日。

# 「図説 17都県放射能測定マップ+読み解き集」の刊行 および 同書を活用した市民科学者の育成



市民放射能測定データサイト  
みんなのデータサイト

高木仁三郎市民科学基金  
2018年度 国内枠助成

## 研究成果発表会

日時 2019年7月13日(土) 11:00~

会場 明治大学 和泉校舎 図書館ホール

〒168-8555 東京都杉並区永福1-9-1  
京王線/井の頭線 明大前駅 徒歩5分

# 高木基金助成

## 2017～2018年度に渡る2ヶ年計画

### 2017年 実施内容

- チェルノブイリ法と日本の**汚染区分・比較表作成**。
- 汚染重点調査地域における**ワークショップの実施（栃木県、茨城県）**。
- 「**環境濃縮ベクレル測定プロジェクト**」における測定データ公開。
- 都県別・**紙のマップ作成**および販売。
- 全面**WEBリニューアル公開**。

## 2018年 4つの課題

- ① 3年間実施した「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」の集大成、17都県をそれぞれマップ化し、解説を加えた書籍、**マップ集・アトラス版を発行。**
- ② 書籍の発行を通じて、原発事故による**客観的な放射能汚染の事実を多くの人に届ける。**
- ③ 完成した書籍を使って「読み解き講座」を実施出来るよう、**測定室メンバーを「市民科学者」として養成する。**
- ④ 汚染重点調査地域における**ワークショップを実施する（福島県、宮城県）。**

# ① 『「図説」17都県放射能測定マップ+読み解き集』の発行

みんなのデータサイト参加の**全国の測定室**による、仕様・内容の検討。

➡ 各ページの執筆担当を割り振り。

➡ これまでの**各測定室の知見、特別な測定活動・調査内容**などが活かせるようページを構成。

**基本コンセプト 「お母さんから専門家まで」  
A4大判書籍・オールカラー・200ページ  
マップ・図表を、約300点収録  
読みやすい文字で、図鑑のような体裁**

# マップ集の構成

【第1章】 土壌マップ 17都県放射能マップと解説

【第2章】 食品の解析 特に気になる食品の汚染度解析

【第3章】 放射能を知ろう 放射能の基礎知識  
指定廃棄物の処理問題  
チェルノブイリと福島比較 など

自分たちがつくりたい  
ものをつくれるよう  
印刷直前まで編集作業が  
続けられるよう  
出版社設立を決意！



# 1,288人 6,273,555円のご支援

「みんなのデータサイト」書籍化クラウドファンディング

締切 9月28日23:59まで!



あたたかいご支援・シェアを  
本当にありがとうございます!

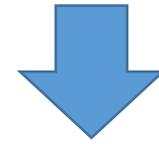


「みんなのデータサイト」スタッフ一同

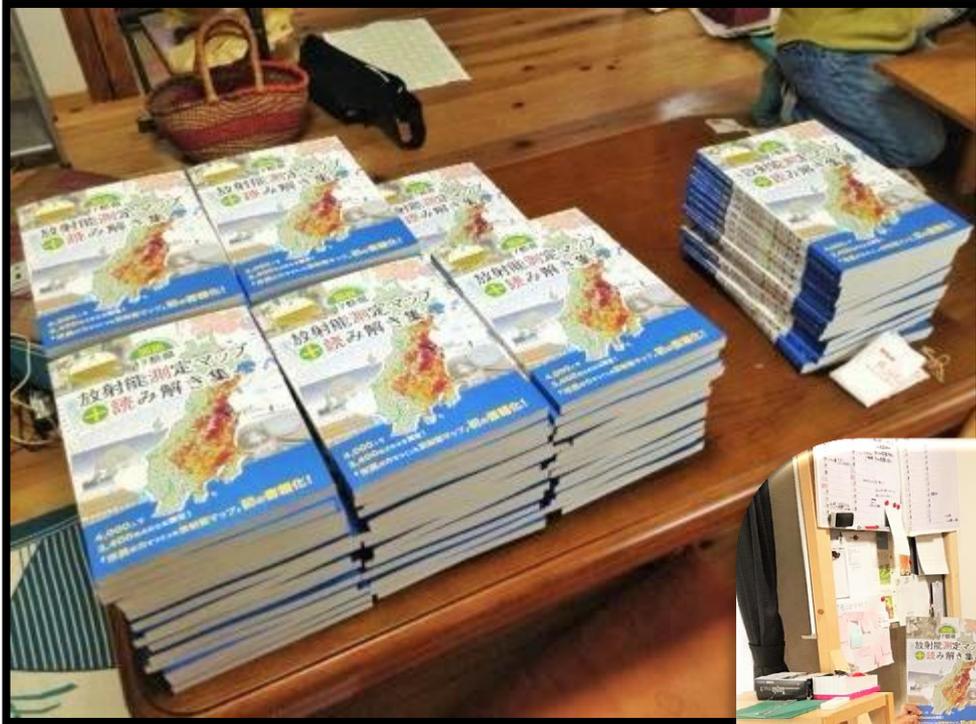


クラウドファンディングサイト「モーションギャラリー」内  
「みんなのデータサイト」で検索!

2018年11月13日 初版3,000部発行

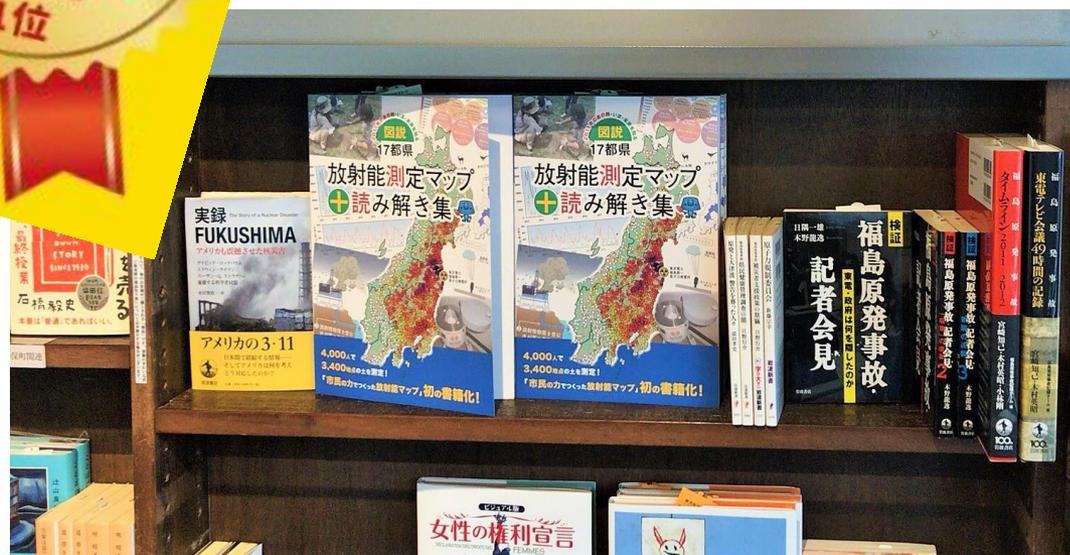
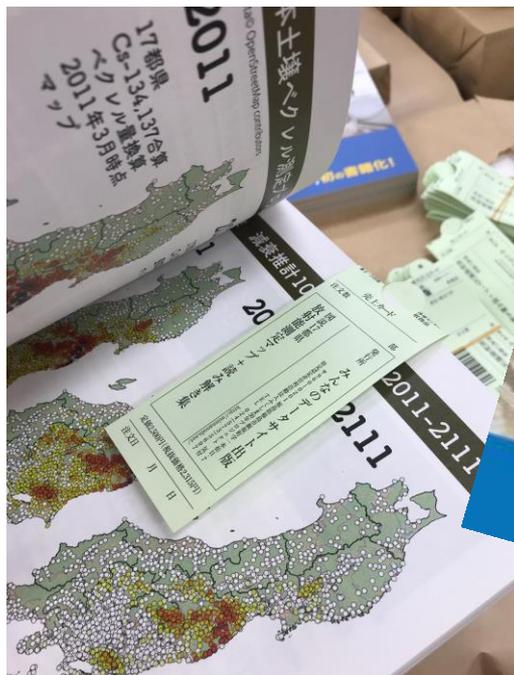


これまでに  
16,000部発行



## ② マップ集を多くの人に届ける

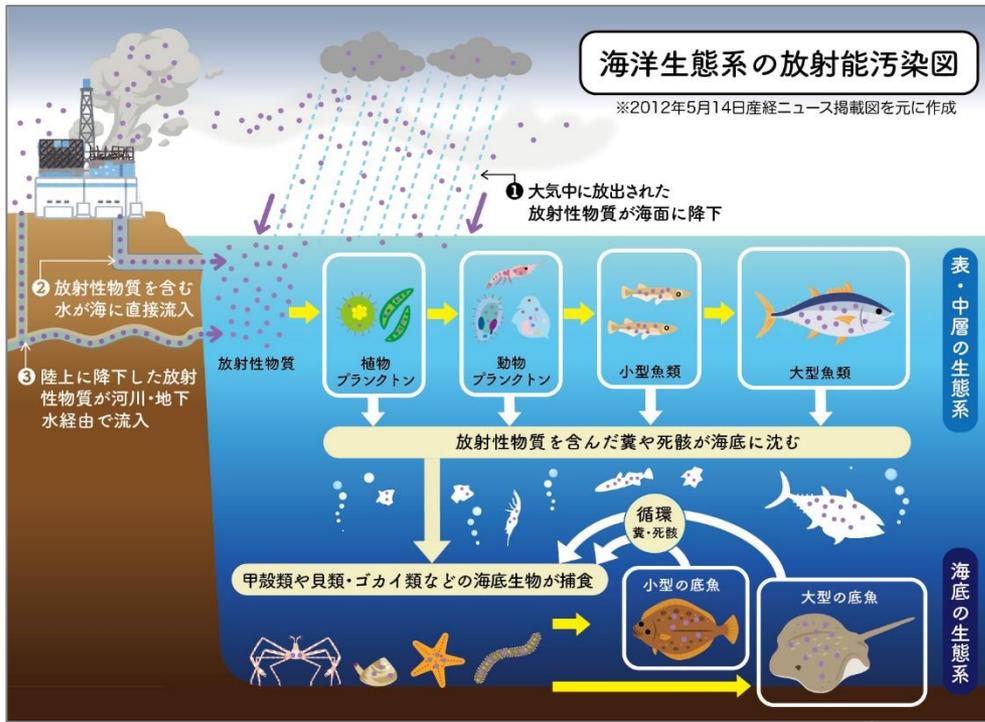
### 地方小出版、amazon での取り扱い



大手書店店頭に並び  
注目が集まる！

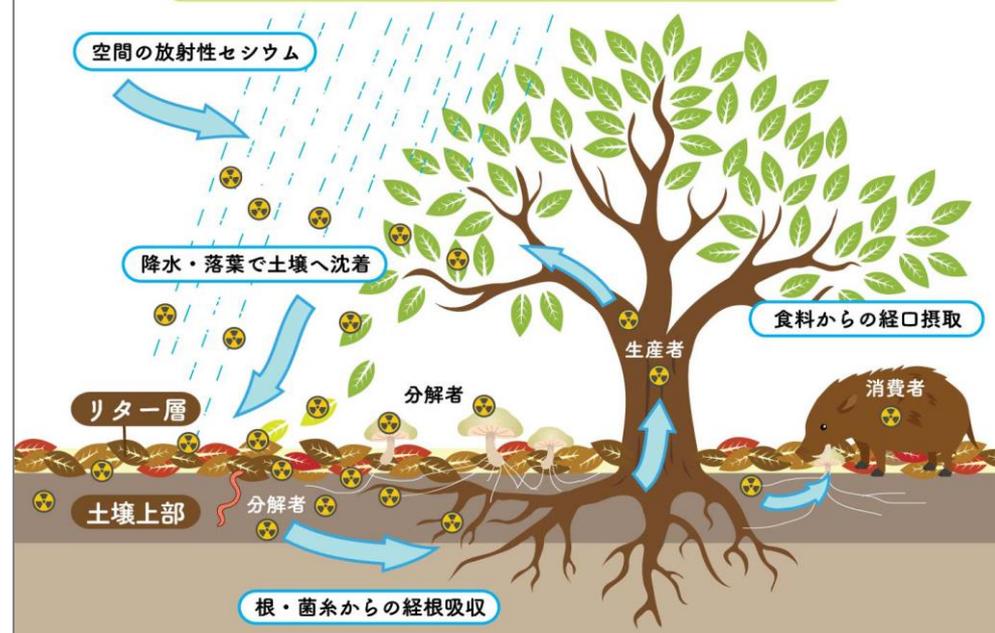






食品汚染については、どのようなメカニズムで汚染が起こるのかを直感的に理解出来るよう、イラストを使って解説した。

### 森とキノコと放射性セシウムの循環図



森の生態系でも同様に、放射性物質が植物と動物との間で、どのように循環するかをイラストで示した。

# 多数メディアが掲載 反響大！

年月日	媒体名	タイトル
2018/9/19	東京新聞「こちら原発取材班」	市民4000人が調べた放射能汚染、ネット寄付で刊行資金集め
2018/12/21	朝日新聞・名古屋本社版、書評	「本の虫」みんなのデータサイト
2018/12/21	週刊金曜日（2018.12.21）	「私たちは黙らない」国がないことにしたくても放射能汚染は科学的事実」
2018/12/22	東京新聞	放射能測定マップ反響、自費出版 異例1万部準備
2018/12/23	東京新聞、朝刊社会面	放射能測定マップ売れ行き↗↗ 「遠からず1万部」
2019/1/19	朝日新聞、書評	市民が各地で続ける地道な調査
2019/2/7	女性自身（2/19号）	東京五輪に影、17都県最新版放射能測定マップ、汚染ランキング
2019/2/28	BIG ISSUE（2月28日発売号）	9年目のふくしま、反響を呼ぶ『17都県放射能測定マップ』
2019/3/6	夕刊フジ、全面カラー	～東日本大震災・原発事故から8年～放射能汚染をより深く知るための必読の1冊
2019/3/7	京都新聞	コラム「梵語」
2019/3/8	北海道新聞	放射能汚染マップ好評、札幌の有志ら延べ4000人測定、17都県の現状1冊に
2019/3/10	東京民報	福島事故8年、データ知り伝えよう、放射能17都県のマップを出版
2019/3/14	日刊ゲンダイ	自費出版が大反響！、放射能汚染 薪を燃やした灰はセシウム濃度が200倍
2019/3/20	消費者レポート(3月20日発行)	6年にわたり市民が測定した力作『「図説」17都県放射能測定マップ＋読み解き集』
2019/3/26	週刊現代（4月6日号）	『図説17都県放射能測定マップ』が教える最新版あなたの町のセシウム汚染度

# 放射能測定マップ反響

本は全てカラーのA4判。17年10月1日〜2011年10月31日までの福島県内各地の放射能測定データを収録。延べ約4千人が計約三千四百カ所を調査。福島第一原発から放出された放射性物質が、どこまで広がったかを明らかにする。また、放射性セシウムの濃度を測定した。事故が

## 当初寄付お返し 自費出版 異例1万部準備

本は全てカラーのA4判。17年10月1日〜2011年10月31日までの福島県内各地の放射能測定データを収録。延べ約4千人が計約三千四百カ所を調査。福島第一原発から放出された放射性物質が、どこまで広がったかを明らかにする。また、放射性セシウムの濃度を測定した。事故が

本は全てカラーのA4判。17年10月1日〜2011年10月31日までの福島県内各地の放射能測定データを収録。延べ約4千人が計約三千四百カ所を調査。福島第一原発から放出された放射性物質が、どこまで広がったかを明らかにする。また、放射性セシウムの濃度を測定した。事故が

本は全てカラーのA4判。17年10月1日〜2011年10月31日までの福島県内各地の放射能測定データを収録。延べ約4千人が計約三千四百カ所を調査。福島第一原発から放出された放射性物質が、どこまで広がったかを明らかにする。また、放射性セシウムの濃度を測定した。事故が

東京電力福島第一原発事故による放射能汚染の状況を調べてきた市民グループ「みんなのデータサイト」が十一月に発行した本「図説17都県 放射能測定マップ+読み解き集」が売れている。自費出版では異例の一万部超えを目指す勢い。出荷作業に追われるメンバーらは、大手の書店でも買えるように準備を始めた。



①自費出版された「図説17都県 放射能測定マップ+読み解き集」  
②第2版の発送作業に追われる「森の測定室 滑川」メンバーたち=埼玉県滑川町で



話による注文で第二版の三千部も完売の見通しとなった。メンバーの小山貴弓さん（左）によると、書店に「この本を扱っていいか」との問い合わせが相次ぎ、福島市と名古屋市の書店に置き始めた。店頭では一冊二千五百円（税込み）。今後、複数の大手書店でも買えるように準備を進めているという。小山さんは「農協や企業からのまとまった注文や、首都圏の汚染度の高い地域の方々からの注文が増えている。原発事故の影響を、市民自らが多角的に検証した点が評価されているのでは」と、反響の大きさを分析。一万部という目標を「遠からず達成できるのではないか」と話した。本の注文は、グループのホームページ（<https://minnanos.net>）か。

【シークス】  
私たちは黙らない!  
vol.12

## 国がないことにしたくても放射能汚染は科学的事実

小山貴弓  
Oyama Kiyomi

「国がないことにしたくても、放射能汚染は科学的事実。私たちは黙らない！」  
小山貴弓さんは、福島県内各地の放射能測定データを収録した本「図説17都県 放射能測定マップ+読み解き集」の著者。本書は、福島第一原発事故から発生した放射性物質の拡散状況を、科学的データに基づいて明らかにしている。小山さんは、本書の発行を通じて、放射能汚染の現状を広く知らせたいと考えている。

放射能汚染の現状を科学的データで示す。福島第一原発事故から発生した放射性物質の拡散状況を、科学的データに基づいて明らかにしている。小山さんは、本書の発行を通じて、放射能汚染の現状を広く知らせたいと考えている。

2018/12/21 週刊金曜日  
「私たちは黙らない」企画  
“国がないことにしたくても放射能汚染は科学的事実”

2018/12/22 東京新聞 夕刊・一面  
本書の売れ行きが好調なこと  
発行の経緯や実際の発送作業を掲載



# 図説・17都県 放射能測定マップ+読み解き集

みんなのデータサイト マップ集編集チーム〈企画・編集〉

みんなのデータサイト出版 2500円

「みんなのデータサイト」は全国33の市民放射能測定室が参加するネットワーク型の団体（024-573-5697）。

そんななかで手にとったこのデータ集は、市民が自らの手で放射能を測定しマップ化したもので、かなり公正な情報なのではないかという手ごたえを感じさせてくれた。

市民がつくる全国33の測定室が、東日本17都県の放射能測定マップのほか、牛乳、米、川魚、海水魚、シ

## 市民が各地で続ける地道な調査

2011年の福島第一原発事故以来、われわれは放射能に関するたくさんの方々のデータや偽情報に翻弄されてきた。国や東電の出す情報が信用できないだけでなく、テレビも新聞も囃し立てる。どうみても疑わしいのに安全を言い募るもの、心象だけで過度に危険をおおりだてるもの、そうしたたくさんの方々のノイズに翻弄され、専門知識がない自分には不安と後ろめたさを抱えながらも、気がつけば事故から目をそらして暮らすようになってしまった。当事者意識が足りないという批判は甘んじて受けるほかない。

事故から8年近く経ち、本書からは、多くの品目で測定値が検出限界以下に下がってきている状況が見とれる。一方でいまだ深刻な汚染が残る地域や品目も具体的に明示されている。

廃棄物の管理状況にも懸念が多い。原子炉施設内で厳重に管理される放射性物質が100g/kg以上のものに対して、事故以降8kg/kg以下は一般廃棄物として処分しているという、被害をもたらした側に都合のいい法律がまかり通っている現状、チェルノブイリでは強制移住レベルの汚染区域が日本では避難指示区域外であることなど、国の対応のひどさには暗澹たる気持ちになってしまふ。だからこそこうした取り組みが必要であり、地道に調査を続けられている方々に敬意を表したい。

専門家でない市民が正確に測定できているのか気になるが、その技術的取り組みについても説明がある。

評・宮田 珠己

エッセイスト

2019/1/21  
朝日新聞 書評欄

宮田珠己さんによる  
書評掲載

2019/1/31  
文化放送 斉藤一美  
ニュースワイド  
SAKIDORI!

「今日のナマチュウ」  
コーナーで  
マップ集紹介



# 様々な団体・図書館にマップ集を寄贈

「クラウドファンディング」による送付 合計 2,108冊  
寄贈 168団体 計 307冊 計 1,801冊

避難者団体  
28団体

避難者支援団体  
29団体

支援による  
申し込み  
**1,758**

保養団体  
62団体

弁護団・原告団  
訴訟支援団体  
49団体

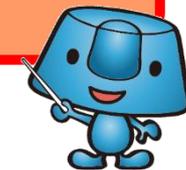
その他  
43

「一食基金」による寄贈 計195冊

福島県内の高校  
131

福島県内の大学・  
公立図書館  
64

総計  
2,303冊



# 海外に渡ったマップ集



ベラルーシ・保養団体（野呂美加）



ドイツ・緑の党元国会議員（野呂美加）



ヨーロッパ30冊（おしどりマコ）

### ③ 測定室メンバーを「市民科学者」として養成



# 助成期間中に実施した「読み解き講座」 (約600名参加)

実施年月日	実施地区	場所	講演名など	測定室講師
2018年 12月2日	神奈川県相模原市	東林間放射能測定室	発売記念「読み解き講座」	東林間測定室：高岡章夫
12月13日	北海道札幌市	札幌エルプラザ 2階環境研修室	「出版記念学習会」	はかーる・さっぽろ：竹ノ内研司 (出版記念学習会第2部)
2019年 1月26日	埼玉県小川町	小川町図書館	発売記念「読み解き講座」	森の測定室 滑川：根岸主門
1月26日	新潟県長岡市	まちなかキャンパス長岡	「公的検査の網に掛からない 食品汚染や土壌汚染の存在と問題」	あがのラボ：村上直行
1月31日	新潟県新潟市	中央区新潟県弁護士会館		あがのラボ：村上直行
2月3日	東京都千代田区	the C	【福島の現実を伝える4冊・ 合同出版発表会】	事務局長：小山貴弓
2月17日	愛知県名古屋市	中区名古屋YWCA	図説17都県放射能測定マップ + 読み解き集の解説講座	C-ラボ：大沼淳一
2月21日	札幌市豊平区	さっぽろ 市民放射能測定所		はかーる・さっぽろ：竹ノ内研司
2月24日	沖縄県浦添市	P's Square コンベンションホール	【そもそもなんでや放射能塾 by みんなのデータサイト・矢ヶ崎先生】	事務局：中村奈保子
2月28日	岡山県岡山市	北区一般社団法人 ほっと岡山	マップ集読み解き講座 in 岡山	C-ラボ：大沼淳一 おのみち-測定依頼所-：杉原宏喜
3月9日	新潟県新潟市	クロスパルにいがた 映像ホール	原発事故、終わっていない？福島原発 事故、福島&新潟 放射能濃度の現状	あがのラボ：村上直行
3月17日	東京都渋谷区	代々木 オリンピックセンター	「2018年みんなのデータサイト年次 総会」にて、マップ集読み解き講座講師 となるための測定室向け勉強会を実施	
3月18日	愛知県名古屋市	愛知県 被災者支援センター	原発ゼロの社会への道 連続講座2018 第4回 ～放射能測定マップ+読み解き集を テキストにして～	C-ラボ：大沼淳一

## ④ 汚染重点調査地域におけるワークショップの実施 (福島県、宮城県)

実施年月日	実施地区	場所	講演名など	測定室講師
3月9日	福島県郡山市	労働福祉会館中ホール	「汚染重点調査地域ワークショップ」	ふくしま30年：阿部浩美
3月23日	宮城県仙台市	青葉区 仙台シルバーセンター	「汚染重点調査地域ワークショップ」	C-ラボ：大沼淳一 てととと：三田常義
3月24日	宮城県大崎市	大崎市立図書館	「汚染重点調査地域ワークショップ」	C-ラボ：大沼淳一



郡山WS



仙台WS

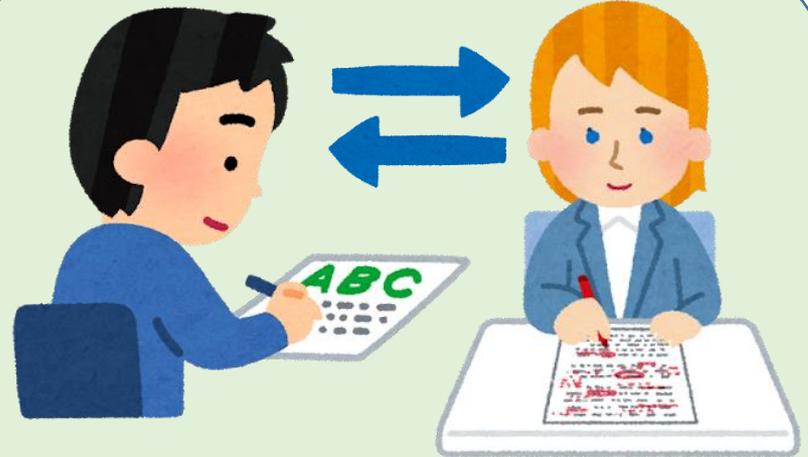


大崎WS

# 今後の展望について



マップ集を教科書とした  
**「読み解き講座」の継続**  
(一般市民対象へ拡大)。  
市民科学者の育成継続。



**マップ集の英語化をはじめとする  
各国語化。**既に英語の要約版に着手。  
さらに、フランス語、オランダ語、ロシア語、  
韓国語についての問い合わせあり。  
各国の志ある方々と連携をしていく。



**出版事業の収益  
を活用**した  
測定基盤の支援、  
および活動促進。  
新規書籍の  
出版活動の企画実施。

これまでのご支援に心より感謝  
申し上げます。

今後ともどうぞ応援よろしく  
お願い致します。

マリネリくん

